

男女共同参画社会を考える 5

昨年度、県男女共生センター主催の「男のための応援専科」セミナーに参加した、村男女共同参画プラン&エンゼルプラン策定委員長の佐藤隆明さんにセミナー参加の感想を聞きました。



料理実習をする佐藤さん
(写真左)

☆セミナーはどんな内容でしたか？

ビデオ&ディスカッション「いま、男たちが変わりはじめる」やワークシヨップ、料理実習がありました。☆セミナーで強く感じたことは何ですか？

教育と農村での性差です。学校では固定的な男女の性差観や役割分担意識を無意識のうちに伝達してしまっ

ているような気がします。村の小学校は男女混合名簿ですが、大抵男子が先で女子が後に名前を呼ばれたり、委員長は男子で副委員長は女子だったり、普段何とも思わないことでも「あれ？」と感じることがあるようです。

農村ではかつて働き手としての嫁とりがあったと聞いています。女性是个性的に生きることはなく、嫁としての役割を果たそうと頑張ってきたのではないのでしょうか。現在はだいぶ変わってきてはいますが、こんなことをセミナーで考えました。

☆料理体験の感想は？

楽しかったですよ。

☆家では家事をやられていますか？

料理は時々したいと思いますが、只今準備期間中です。

ありがとうございました。

何に使うの 教えて 村の予算 第5回 産業振興政策・特に商工業振興について

村の1番の悩みは、1人当たり家計所得が県内90市町村の中で1番低いということです。もちろんデータの取り方で60~70番ということもあるのですが、いずれにしても村民の生活が他の市町村に比べて決して豊かではないという証です。

行政の大切な仕事に「村民に豊かな生活を」があります。「豊かな生活」とは、お金だけではないことも十分言えることですが、それにしても「もう少し村民の所得を上げなければ」という切実な思いを持っているところです。

ではなぜ、飯館村は所得がそうに低いのでしょうか。いろいろ調べてみた結果、農業は他の市町村にいろいろな点で勝っている事が多いのですが、「2次、3次産業」が低迷しているということが原因の1つだとわかりました。つまり、農業に力を入れてきたため、商工業などが他の類似町村より弱くなってしまったということです。したがって「暮らし」の基本である農業にこれまで以上に力を入れながらも、あわせて2・3次産業の強化を図っていくことが必要なのです。早速村では、いくつかの施策を進めていくことになり、これまで村にある企業が拡大して雇用を増やしたり、村に来たい企業

に支援しようという制度を作りました。商工業者が金融機関からお金を借りるときの利子補給をしたり、企業誘致アドバイザーの委嘱もしています。企業支援はこれまで村内の業者3社が受けられ、今経営安定に向け努力しています。利子補給はこれまで4年間で196件、借入額12億58,000万円、その利子1,209万円、14年度も利子補給400万円を予算化しているところです。その他商工会への運営補助470万円、事業補助100万円など、これまでになく力をいれているところです。しかし、日本中の経済不況のため、思うようにならないことも現実です。しかし、農業だけで村を興していくことは少し無理がありますから、今後ともさらに商工業振興を図っていかねばなりません。村民の職場が確保され、所得が少しでも上がるよう、今後も商工業振興による所得の向上に努めていく予定です。

いずれにしても商工業の方々の自らの努力が最大の経営戦略ですから経営感覚をさらに磨かれ、広い視野をもって協力しあって商工業の振興に務めてもらいたいものです。詳しいことは、「村の予算書」P41~45を読んでみてください。

(次回は教育予算についてです)